

2025年度広島市立大学総合型選抜 試験問題

(国際学部)

小 論 文 (60 分)

2024年10月19日

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は **5 ページ**あります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙は **2 枚**です。解答はすべて解答用紙の所定の場所に記入しなさい。
- 4 受験番号は、すべての解答用紙の所定の欄に、必ず記入しなさい。
- 5 解答用紙とは別に、下書用紙が **2 枚**あります。必要に応じて自由に使用しなさい。
- 6 配付した解答用紙は、試験終了後にすべて回収します。
- 7 試験終了後、問題冊子および下書用紙は持ち帰りなさい。

このページは白紙である。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人の質問に答え精巧な文章や画像を作る生成人工知能（A I）の進化、普及が著しい。業務の効率化を実現させた職場もある。

創造性ものぞかせる。手塚治虫の代表作「ブラック・ジャック」の新作が発売された。過去の作品を学習した生成A Iが新たなシナリオやキャラクターを生んだ。

一方、偽情報を生成し偏見を助長するなど、警戒感も高まった。

A I誕生は産業革命並みと言われる。蒸気機関は暮らしを劇的に変えた。ただ決定的に違うのがA Iは心に直接介入し、人が物事を決める過程に影響を与える点だ。

誰にも干渉されず、個人が意思決定できることが民主主義の根幹だ。そんな現代社会の姿を、A Iは根本から変える可能性がある。

その先に何があるのか。文明を壊し「核兵器並みの脅威になる」と警告するA I研究者もいる。

A Iを将来の繁栄につなぐため必要なことを国家や世代を超えて探り、行動に移さねばならない。

生成A Iの存在を一躍、世界に知らせめたのが、米企業オープンA Iの「チャットG P T」だ。官民間わず導入の動きが広がった。

石狩管内当別町は全庁で職員が議事録作成などに活用している。

広報誌の担当職員は、住民票などのコンビニ交付を紹介する特集記事を組む際、構成案をチャットG P Tに質問し、一瞬で得られた回答を参考にして完成させた。

「以前は構成を練るだけで数日を要した」と効果を実感する。「頼りすぎると自分で考えなくなるとも思う。ただ今後、A Iを使わないことにはならない」と話す。

町は負担軽減の効果が絶大だと評価する。空いた時間を住民との直接対話などに生かす考えだ。

最新A Iの開発動向も注視する。「次の技術が誕生したら乗り換えないと取り残される」からだ。

効率化は業務の改善に資する。A I活用の価値は十分あろう。

ただ懸念もある。技術革新は日進月歩で後追いに懸命な利用者は多い。開発企業に振り回されリスクを見過ごしはしないだろうか。

開発が加速したのは、ネット上の大量のデータから特徴や類型を学ぶ「深層学習」が登場してからだ。予測・識別機能も備え、自動運転などで応用が広がった。

A Iは質問を瞬時に処理し確率の高い回答を示すに過ぎず、言葉の意味は理解して

いない。誤りや偏見もある。だが利用者がA Iを疑わずに依存し、個人の尊厳を冒すなど深刻な事態も起きている。

ベルギーでは、社会に不安を抱える男性がA Iとの対話を数週間重ねた末、自ら命を絶った。

民主主義も揺るがす。日本で俳優が特定政党を応援する虚偽投稿が拡散した。発信者は生成A Iに作らせた「俳優のコメント」をそのまま載せ「(俳優が) 本当に支持していると思った」と話した。

悪意を持って使えば脅威は増す。選挙や戦争の偽情報は今や戦略的に拡散され、世論を操る。

慶応大の山本龍彦教授（憲法学）は「情報の加速度的発展によってもたらされた、近代立憲主義の危機」と現状を指摘する。

憲法で国家権力を統制し、個人の権利を守るのが近代立憲主義だ。だが今、巨大IT企業が個人の尊厳や意思決定、民主主義を脅かす「新たな権力主体」となり憲法の統制も受けず台頭したという。

国際社会は対策を進める。欧州連合（EU）は、A Iの開発や運用を包括的に規制する法案に合意した。違反者に制裁金を科すなど強制力を持つ世界初の法律となる。

日本政府も事業者にリスク対応を求めるガイドラインを策定中だが、自主規制となる見込みだ。実効性が保てるのか疑問が残る。法整備も検討するべきである。

利用者のA Iリテラシー（活用能力）向上も問われている。情報の真偽を見極める力をつけねばならない。特に未来のA I社会を担う子どもたちへの教育は重要だ。

政府は生成A Iの小中高校向け指針を出し、A Iの性質などを児童生徒に理解させるよう求めた。ただ授業時間や教員の力量は不足し、取り組みは不十分なままだ。

開発が加速する今こそ行動が必要だと感じている若者もいる。公立はこだて未来大の学生らはA Iを学ぶ教材の無償提供を始めた。

教材は森林保全やフードロスなどの問題を取り上げ、A Iで解決を図る際の利点、課題を生徒に考えさせる。高校で授業も行った。

メンバーの川村拓^{ひろ}さんはプライバシーや著作権の侵害などの課題を念頭に「A Iを批判的に見ることが大切」と強調する。今後、教員とも連携し活動範囲を広げる。

言葉をデータ処理するA Iに全て委ねず、言葉の意味をかみしめ思考力を高めることが成熟したA I社会を築くために必要である。

出典：『北海道新聞』社説 2024年1月5日。必要に応じて表現等を変えてある。

北海道新聞社許諾 D2506-2705-00028872

問 1 人工知能（A I）の活用が広がるにつれて，私たちの時間の過ごし方はどのように変わっていくか。本文をふまえつつ，あなたの考えを 400 字以内で述べなさい。

問 2 A I は社会にどのような課題を提起しているか。あなたの考えを 400 字以内で述べなさい。